

2022年1月21日

## 立命館守山中学校・高等学校フィロソフィ

藤田翔平  
坂 一平  
押淵 毅  
辻 大樹  
犬飼龍馬

### I. はじめに

2006年4月、滋賀県守山市勝部町の校舎にて始まった立命館守山高校は、前身の市立守山女子高校である市立学校から学校法人立命館へと、国内史上初となる公立から私立への学校設置者移管によってスタートした。

開校当初のスローガンは「地域に学び、世界に発信する」であった。そこに込められた想いは、地元守山市の期待を受け継ぎ、これまでの歴史を背負いながら、グローバルな視点を備えた新たな学校として地域に根付くことを目指して開校する、というものであった。

時を同じくして、2006年6月には学校法人立命館が「立命館憲章」を策定。その中では、今後の立命館が世界の平和的・民主的・持続可能な発展に貢献するために研究と教育に邁進していくという決意が述べられている。

2007年4月、立命館守山は現在の三宅町の校舎に移転するとともに、立命館守山中学校を開校。田園風景豊かな環境の中で、学校法人立命館4番目の中高一貫校として、立命館大学びわこ・くさつキャンパスとの連携を重視した文理融合の学びを展開する学校の歴史をスタートさせた。

現在、世界では情報技術の革新により、人間に求められる資質は日々更新されている。解のない問いに立ち向かい、新たな価値を創造し、それを発信する力。同時に持続可能な社会を創造する力。学校は今、それらの力を発揮できる資質を育てることが求められている。そこで私たちは2030年までに、探究型の学びを通して主体的・対話的で深い学びに没頭すると同時に、SDGsのような人類の諸課題に真っ向から向き合い、小中高大院18年で一貫した「次世代研究大学」へと進化しようとしている。

つまり、私たち立命館守山は、

- 文理の枠をはじめとするあらゆるボーダーにとらわれず、
- 地域の持続可能な発展から世界の発展にまで目を向け、
- 自らの学びと成長が2030年までに実現したい理想の世界に繋がるように、
- 守山市を中心とした新たな教育・研究の発信源として、

その社会的責任を果たさなければならない。

守山市三宅町に集まった多様で有能な生徒と教職員が一丸となって知的創造活動を愉しみ、地域・社会が抱える様々な課題を解決・改善していくためにこそ、私たちの存在価値がある。そのためには、DX (Digital Transformation) によって生み出された ICT 機器を存分に活用し、一斉授業による同質の学びにとらわれない個別最適化の学びを旺盛に展開しつつ、生徒と教職員・保護者・地域の多様な人材が互いに関わり合うことで、これまで

にない様々なイノベーションを起こして行かなければならない。

そのような私たちに求められる姿は、以下のことである。

- 地域社会や世界の課題から目をそらさず、世の中の情勢に常に敏感であること
- 多様な生き方や価値観に寛容であり、それらを全て包摂できる集団であること
- 自由に学び、自由な挑戦が許される環境を創出すること
- 自らの置かれた環境に感謝の念を抱きつつ、地域社会の平和的・民主的・持続的な発展のために努力を惜しまないこと
- 教職員はそのような人としてあるべき姿を常に手本として生徒に示さなくてはならないこと

私たちは地域・社会からの期待を裏切らない、最先端の教育と研究を展開する中等教育機関であり続けなければならない。

混迷を極める社会において、滋賀県守山市が

未来の希望を生み出す Innovation Factory であるために、

一人でも多くの人々の幸福を生み出すために、

私たちは学び、挑戦し続ける。

以下に述べる立命館守山のフィロソフィでは、そのための Mission（使命・目的）、Passion（情熱）、Vision（通過点・目標）、Action（行動）についてあるべき姿を記している。このフィロソフィは、全ての教職員が同じ目的を達成するために共有する「行動指針」である。行動指針であるからには、具体的な実践を伴わなければ意味がない。私たちは、一人一人が覚悟を持って行動することによってそれぞれのフィロソフィを体現するのである。

## II. 立命館守山中学・高等学校のフィロソフィ

私たちは、あらゆる教育活動を通じてすべての生徒・教職員・保護者・地域の方々の幸せを実現することを最優先に行動する。それが結果として、より多くの児童・生徒・教職員に選ばれ、または保護者や地域の方々から応援される学校になるために必要なことである。

したがって、立命館守山に通うすべての生徒一人一人が充実した学校生活を送ることができる環境を整えるだけでなく、同時に立命館守山で働く教職員にとっても働き甲斐のある環境づくりを行う。その環境のなかで教職員が働き甲斐を感じながら教育活動に励む姿を生徒に示し、私たち自身が人生の素晴らしさや魅力を体現する。誰かが犠牲にならないと生み出せないような生徒の幸せは、決して私たちが目指す学校のあるべき姿ではないことを断言する。

また、私たちの学校が存在する意義を見出すためには、保護者や地域の方々をも幸せにできる教育活動を展開しなければならない。なぜならば、生徒の幸せは教職員との関わりのみで生み出されるものではなく、生徒を取り巻くすべての大人たちとの関わり合いの中で生み出されるものだからである。

以上のように、私たちは立命館守山に通う生徒と、立命館守山に関わるすべての人々の幸せを追究する。このことから、立命館守山中学・高等学校が中心に据え

るフィロソフィは

## 自他の幸せのために行動する

である。それを実現するために、4つの具体的な「行動指針」を立てる。その「行動指針」を以下に示し、さらにその「行動指針」を具体化するため、稲盛和夫氏の言葉をはじめ、古今東西に膾炙してきた教えを挙げた。この言葉・教えを日々教職員で共有し、年間通じて「行動指針」の浸透をはかる。

### 【1. 主体的に行動する】

#### (1) 人生の主人公は自分自身

幸せは生徒・教職員一人ひとりのものである。他者が決めた価値観に沿ってばかりの人生では、自分の人生を生きているとはいえない。自分自身が人生の主人公であり、自分が幸せのあり方を決めるのだ。そのためには自分の価値観を持つことが重要だ。自分の価値観を持っていれば、周りからの異なる価値観に惑わされることはない。そのためには、自ら考えて、自ら行動することが大事である。幸せのあり方は自らの行動で形づくるものなのである。一つ、忘れてはならないのは、その価値観の中心には、「人として何が正しいか」という考えを据えることである。人として正しい行動ができる主体的な人間は、結果として周りの人間も幸せにすることができ、その幸せは自分にも巡ってくるだろう。立命館守山中学・高等学校では、生徒・教職員一人ひとりが心に描く幸せを実現できる学校づくりをしていく。

#### (2) 対等な対話で「正解」をアップデートする

教師と教師、そして生徒と生徒、さらには教師と生徒は「対等な関係」である。日本国憲法にも示されているように、私達は法のもとにおいて差別されるべきではなく、誰しものが掛け替えのない存在として教育活動がおこなわれるべきである。教師が生徒に命令したり、教師の考えを生徒に押し付けたり、教師の考えが絶対的であるかのように生徒たちに接すると、民主主義社会、そして情報社会に生きる子どもは不満を抱き、反抗を始めるようになる。そのような悪化した関係の中ではいい教育はできない。それは教師と教師という関係においても同じである。

「自分の人生を生きているか?」「私はいま幸せか?」そんなシンプルな問いを投げかけたとき、子どもたちは「YES」と言えるだろうか。これからの社会において、すべての子どもたちがこの問いに「YES」と答えられるように、私たちは子どもたちが当事者として社会と関わり、社会を形成していける風土を学校に醸成させるサポートをする必要がある。

学校は教師のものではなく、教師と生徒が共に作り上げていくもの。だからこそ、生徒も学校の現状を知る必要があり、意見を必要がある。誰もが年齢に関係なく、自由な気持ちで楽しむことが出来る環境、人と人との心の壁が低い環境を設け、対話をしやすい学校社会の土壌を形成し、これまで認識もできなかった「正解」が立ち現れる対等な対話を行っていく。

- 自分がやるべきことをつきつめていく (山縣亮太)
- 大事なことは、自分に何かができることだ (ジョン・レノン)
- 心に従わない理由などない (スティーブ・ジョブズ)

- 成功とはただひとつ。自分の人生を自分の流儀で過ごせること（アガサ・クリステイー）
- 自らを尊しと思わぬものは奴隷なり（夏目漱石）
- まずは大胆に自分自身を信じることだ。自分自身を信じない者の言葉は常に嘘になる（フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ）
- 高く登ろうと思うなら、自分の脚を使うことだ！ 高いところへは、他人によって運ばれてはならない（フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ）
- 各自は自己の運命の責任者である（アピウス・クラウディウス・カエクス）
- 断じて行えば鬼神もこれを避く（『史記』）
- 自力でやれ（伊藤博文）
- 自分が決めた道を歩き続けなくてはいけない。何もせず、何も学ばず、何も探求しなければ、道に迷ってしまう（フィンセント・ファン・ゴッホ）
- 迫害を受けなかった天才はいない（ヴォルテール）
- 自分の持ち船を漕げ（ギリシャ人の言葉）
- 他人の物語の中で生きていくことだけはしたくない。（あさのあつこ『ガールズ・ブルー』）
- 嫌われているということは、目立っているということ。（島田洋七『がばいばあちゃんの勇気がわく 50 の言葉』）
- 二人、三人に嫌われてもあと地球には、六十億人がいるよ。（島田洋七『がばいばあちゃんの勇気がわく 50 の言葉』）
- 自分のすることを愛せ（『ニュー・シネマ・パラダイス』アルフレード）
- 誰の人生だ？ 親に従えば親を恨むことになる（『ベッカムに恋して』ジョー）

## 【2. 挑戦する】

### （1）失敗は挑戦した証

歴代の成功者は過去の「失敗」も含めて「成功」と考えてきた。エジソンは言った。「失敗すればするほど、我々は成功に近づいている」。イーロン・マスクは言った。「失敗しないのであれば、あなたは十分にイノベーターであるとは言えない」。「失敗」を定義づけるのは自分たちであり、私たちはチャレンジによる「失敗」を失敗とは見なさない。立命館守山は常に、自分の価値観にもとづいたチャレンジを大切にしていることを誓う。

### （2）失敗は未来志向で対処（原因論ではなく目的論）

何かが起こった時、人は必ずと言っていいほど原因を追求します。原因を明らかにするというメリットは確かにあります。なぜそのミスが起きたのか？という原因を明らかにしておくことで、再び同じミスが起こるのを防げるかもしれない。一方で原因論的思考で物事を解決しようとする、失敗を起こした側は責任を問われる形になり、結果生産性が生まれにくいということが生じる。そうではなく、達成したい目的に向けて「じゃあどうする？」といった未来志向で考えることは、ポジティブ思考を生み出す。目に見えない未来を信じて行動することで、教職員も生徒もポジティブ思考を持った学校を作り上げることを誓う。

- 苦しさ、つらさ、真剣さがあって、味わうことができる楽しさがある（川内優

輝)

- 今の自分には想像できないような自分に成長したい (猶本光)
- やり続けていくことが、自身につながっていく (加藤凌平)
- お前には無理だって言われたことは全部やってみたかった (マドンナ)
- 成功するのに最も確実な方法は、常にもう一回だけ試してみることだ (エジソン)
- 物事は、常に成し遂げるまで不可能なように見えるものだ (ネルソン・マンデラ)
- 一生懸命につくったものは、一生懸命に見てもらえる (黒澤明)
- 人間は努力をする限り迷うものだ (ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ)
- ごまかしで成功するよりも堂々と失敗するほうがました (ソフォクレス)
- 険しい道こそが偉大なる高みへと通じている (ルキウス・アンナエウス・セネカ)
- 危険を冒さずに勝っても、そこに栄光はない (ピエール・コルネイユ)
- 天才とは偉大な忍耐の才能にほかならない (ジョルジュ＝ルイ・ルクレール・ド・ビュフォン)
- 批評は人の自由、行蔵 (身の振り方) は我に存す (勝海舟)
- 樹木は風に吹かれて強くなる (ルキウス・アンナエウス・セウス)
- 笑われて、笑われて、つよくなる (太宰治)
- 〈そのまんまでいい〉を言いわけにするなよ。(小泉吉宏『ブッタとシッタカブッタ2』)
- 恥かかかもしいんないけどよ、一生情けないままよりいいだろ (『ウォーターボーイズ』磯村)
- 手え出すなら終いまでやれ! (『千と千尋の神隠し』釜爺)
- 寝ても覚めても強烈に思い続ける (稲盛和夫)
- すみずみまでイメージできれば実現できる (稲盛和夫)
- 細心の計画と準備なくして成功はありえない (稲盛和夫)
- あきらめずやり通せば成功しかありえない (稲盛和夫)
- あふれるほどの夢を描け、人生は大飛躍する (稲盛和夫)
- 自分に打ち勝ち前に進め、人生は大きく変わる (稲盛和夫)

### 【3. 感謝する】

#### (1) 自他に誠実に

私たちは個人の私利私欲を満たすための思考・行動になってはならない。なぜならそのような思考・行動は他者の幸せを奪うことになりかねないからである。自分の幸せも他人の幸せも相手があってこそのものである。他者に対して誠実に接するということは、相手を想い行動することであり、他者の幸せを願いその存在を認めていくということである。立命館守山は自分にも他者にも誠実な集団となり、集団の幸せを追求していくことで、安心できる仲間として成長していく。

#### (2) 感謝が良い議論を生む

良い議論とはその集団がより良い選択をするための判断材料を提供する対話である。より良い選択をするためには、様々な観点から物事を判断する必要があり、より大胆

な意見、より大胆な発想を出すためには、互いに感謝できる人の和が必要である。私たちは「意見を出してくれてありがとう」という気持ちを持ち、良い議論で日々「正解」をアップデートしていく。

- 君の涙は、みんなのものだよ（サミュエル・ベケット『ゴトーを待ちながら』）
- 人は何によって支えられているか？（カフカ『変身』）
- 君の命は二千万人から成り立っている（寺田寅彦「自画像」）
- 痛みを分け与えよう！（ウィリアム・シェイクスピア『から騒ぎ』）
- ひとりぼっちはありえない（木村敏『生命のかたち／かたちの生命』）
- ただ話を聞くという、すばらしい才能（ミハエル・エンデ『モモ』）
- 人に気づかれないようにするのが本当の優しさ、本当の親切。（島田洋七『がばいばあちゃんの勇気がわく50の言葉』）
- ある種の人たちは、疲れ果てるまで他者の成功を妬む。しかし、自分では何も始めないのだ。（アルフレッド・アドラー）
- 誰かが始めなければならない。見返りも承認も求めずに、あなたが始めるべきなのだ。（アルフレッド・アドラー）
- 怒りやすい人は怒りによって容易に他者の支配者になれることを知っている。（アルフレッド・アドラー）
- 個人は社会的な文脈においてのみ、個人となるのだ。（アルフレッド・アドラー）話す、読む、書く。これら人間の能力といえるものが発達するのは、仲間の人間に関心を持つことによってだけだ。（アルフレッド・アドラー）
- 臆病が伝染するように、勇気も伝染するものだ。（アルフレッド・アドラー）
- 勇気を持とう。戦う必要がないことを知ろう。そうすれば健康になる。自分の行動の責任を負おう。一步を踏み出そう。そうすればあなたのためになる。（アルフレッド・アドラー）
- 他者と関わるうえで、もっとも重要なことは他の人の目で見、他の人の耳で聞き、他の人の心で感じることだ。（アルフレッド・アドラー）
- 暴力が減ることはない。終わらせる手段があるとすれば、共同体感覚を思い起こすことだけだ。（アルフレッド・アドラー）
- 共同体感覚のない人は、性悪説を信じたがる。（アルフレッド・アドラー）
- 共同体感覚がまったく欠けている人はいない。ただ、勇気をなくしただけだ。（アルフレッド・アドラー）
- リーダーには才よりも徳が求められる（稲盛和夫）
- 常に内省せよ、人格を磨くことを忘れるな（稲盛和夫）
- どんなときも「ありがとう」といえる準備をしておく（稲盛和夫）
- 人を惑わせる「三毒」（欲望、愚痴、怒り）をいかに断ち切るか（稲盛和夫）
- 心の持ち方ひとつで地獄は極楽にもなる（稲盛和夫）
- 利他に徹すれば物事を見る視野も広がる（稲盛和夫）
- 世の人のためなら、すすんで損をしてみる（稲盛和夫）
- 自然の理に学ぶ「足るを知る」という生き方（稲盛和夫）
- 因果応報の法則を知れば運命も変えられる（稲盛和夫）
- 結果を焦るな、因果の帳尻はきちんと合う（稲盛和夫）
- 悟りを求めるより、理性と良心を使って心を磨け（稲盛和夫）

- どんなちっぽけなものにも役割が与えられている（稲盛和夫）

## 【4. 前向き】

### (1) 未来を見る

下を向いては進めない。足元ばかり見ても進むべき方向は見つからない。進むことのできる人間は常に前を向いている。未来を見据えて行動すれば、自ずと進むべき道が見えてくる。苦しい時があっても、決して下をみず、前を向いて突き進もう。

### (2) ワクワク・ドキドキを大事に

人は楽しいところに自然と集まる。同様に、人は楽しそうな人に自然と魅了される。ワクワク・ドキドキを大切にできる人は人を惹きつける力がある。教職員は生徒にワクワク・ドキドキを伝えていくことが必要だ。遊び心から余裕が生まれ、遊び心から新しいアイデアが生まれる。

### (3) 比べるべきは過去の自分、未来の自分

人が挫折を覚えるのは比較からである。理想や他者と比較しても、自分の能力は測れない。できない自分ばかりみて、自分を認めることができない。それでは前向きにはなれない。大事なのは過去の自分と比較して、成長を感じる。未来の自分と比較してこれから成長できる可能性にワクワクすることが人生にとって重要だ。

- 矢印を外に向ける（筒香嘉智）
- 思い切って行動してみることで、新たな夢が見えてくる（高橋大輔）
- 勇気を出して、一步ふみ出せば、世界が変わる（香西宏昭）
- 夢ってかなうじゃん！（のぶみ）
- あなたが転んでしまったことに関心はない。そこから立ち上がることに関心があるのだ（リンカーン）
- 私は意志が弱い。その弱さを克服するには自分を引き下がれない状況に追い込むことだ（植村直己）
- 絶望の隣は希望です（やなせたかし）
- 重荷が人をつくる。身軽足軽では人は出来ぬ。（徳川家康）
- 人の最も優れたところは苦しみを乗り越えて喜びをつかめることです（ベートーベン）
- いつまでも続く不幸は存在しない。じっと我慢するか、勇気を出して追い払うかのいずれかである（ロマン・ロラン）
- 闇があるから光がある。そして闇から出てきた人こそ、一番本当に光の有難さが分かるんだ（小林多喜二）
- 平凡なことを毎日平凡に続ける。これを非凡と呼ぶ（アンドレ・ジッド）
- 志を遂げるのが困難なのは、誰かに勝てないからではない。自分自身に勝てないからだ（韓非子）
- 思い出が悲しいのではない。思い出を美化するから、悲しいのだ。（秋元康）
- 大変なほうを先にやる。そしたら、後が天国だから。（島田洋七『がばいばあちゃんの勇気がわく50の言葉』）
- 人は生まれたときから劣等感と闘う。そして、目標へと向かっていくのだ。（ア

ルフレッド・アドラー)

- 知っているだけではダメ、貫いてこそ意味がある (稲盛和夫)
- 考え方のベクトルが人生すべての方向を決める (稲盛和夫)
- 複雑な問題も解きほぐせばクリアに見えてくる (稲盛和夫)
- 求めたものだけが手に入る (稲盛和夫)